

**製品名: CDCP1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08536**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	95kDa

**抗原情報**

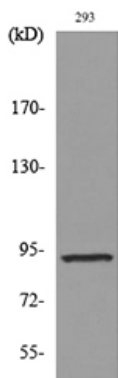
遺伝子名	CDCP1 CDCP1; TRASK; CUB domain-containing protein 1; Membrane glycoprotein gp140;
別名	Subtractive immunization M plus HEp3-associated 135 kDa protein; SIMA135; Transmembrane and associated with src kinases; CD318
遺伝子 ID	64866.0
SwissProt ID	Q9H5V8
免疫原	抗血清はヒト CDCP1 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 241-290

## 背景

この遺伝子は、3つの細胞外 CUB ドメインを含む膜貫通タンパク質をコードし、Src ファミリーキナーゼの基質として機能します。このタンパク質は、腫瘍の浸潤と転移に関与する細胞イベントのチロシンリン酸化依存性制御に役割を果たします。選択的スプライシングにより、この遺伝子の複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2013 年 5 月]機能:細胞接着および細胞マトリックスの会合に関与している可能性があります。リン酸化を介して、足場と移動、または増殖と分化の制御に役割を果たしている可能性があります。白血病診断および未熟造血幹細胞サブセットの新しいマーカーになる可能性があります。腫瘍の進行と転移に関するテトラスパニンウェブに属します。、PTM:細胞表面でのタンパク質分解切断によって可溶性型が生成されることもあります (シェディング)。培養ケラチノサイト中には、80 kDa の別のペプチド (p80) が存在する。これは、おそらく N 末端側の未確認部位でのトリプシン分解によるものと考えられる。トリプシン様プロテアーゼであるプラスミンによって p80 に変換される。、PTM: N-グリコシル化。、PTM: SRC ファミリーのキナーゼ (SRC や YES など) やプロテインキナーゼ C ガンマ/PRKCG によってチロシンがリン酸化される。ホスホチロシンホスファターゼによって脱リン酸化される。また、ヘパリン類似体であるスラミンによってもリン酸化される。インテグリン  $\alpha 6\beta 4$  とラミニン 5 の解離に反応してリン酸化されるチロシン。、類似性:1 つの CUB ドメインを含む。、細胞内局在:切断により可溶性ペプチドも生成される可能性がある。、サブユニット:CDH2/N-カドヘリン、CDH3/P-カドヘリン、SDC1/シンデカン-1、SDC4/シンデカン-4、セリンプロテアーゼ ST14/MT-SP1 と相互作用する。また、SRC および PRKCG/プロテインキナーゼ C ガンマとも相互作用する。、組織特異性:有糸分裂細胞で高発現し、間期には低発現。骨格筋および結腸で最高レベル、腎臓、小腸、胎盤、肺で低レベルに検出される。多数のヒト腫瘍細胞株、ならびに大腸がん、乳がん、肺がんで上方制御されている。間葉系幹細胞や神経幹細胞を彷彿とさせる表現型を持つ細胞でも発現します。

## 研究分野

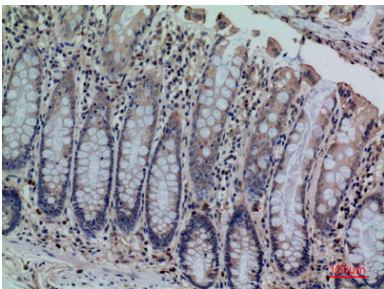
## 画像データ



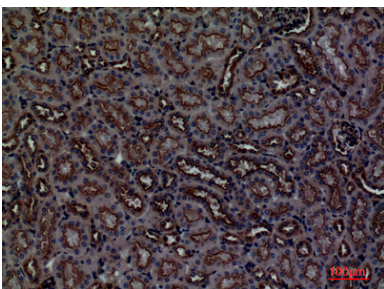
CDCP1 抗体を使用した 293 細胞溶解液のウエスタンブロット分析。



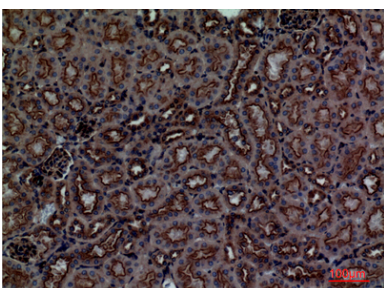
CDCP1 ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



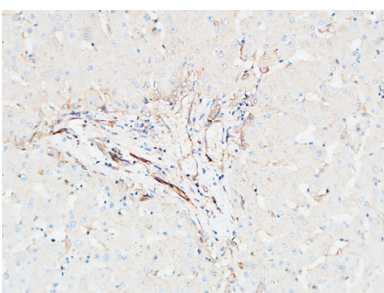
パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



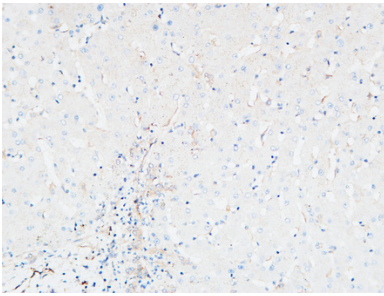
パラフィン包埋マウス腎臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



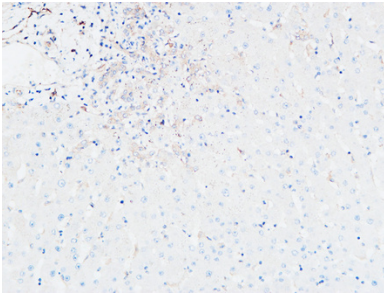
パラフィン包埋マウス腎臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈（4°、一晚）。2、高圧高温 EDTA（pH8.0）を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30分）。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。